

啓くる時は遂に田園を償ひ、年毎に廻學して利を取ること本に過ぐ。』といふが如くであつた。因つて九年九月の詔に至つて、臣家の稻を諸國に貯へて百姓に出學することを禁斷し、若し違ふ者があれば違勅を以て論じ、其の物を没官し、國郡の官人は見任を解くであらうと嚴達せられた。されば此の如き際に勝石の私稻を出學したことは、その息利の多少によらず全然違法であつたので、彼が單に利稻を没官せられたに止り、その本稻と官職とを褫奪せられなかつたのは、尙且つ寛典であつたのである。

ミチノトモシ 道のともし 一冊。金澤の俳人車大編。文化十二年京勝田善助板。車大が先師後川の爲に水菴塚を卯辰山醫王院に建てた因みに選じた句集である。水菴塚は希因・後川その外門葉の筆跡を籠めたもので、碑の表に遊行上人一空が六字の名號を書き、裏面に北枝・希因以降の俳系を記したものである。序は文化乙亥賀府芸臺の記する所。但し序文にこの年後川の遠忌に當るとあるが、十七回忌ならば明年の筈である。

ミチハシガタ 道徳方 藩政時代に、道路及び橋梁の修築を掌る一部局で、御普請會所の中に屬してゐた。

ミチヲ 道雄 ↓ナホヤマミチヲ 直山道雄。

ミツ 江沼郡西、庄に屬する部落。江沼志稿に、この村に御亭跡といふがあり、そこに入日松もあつたとし、菱懸紀聞には、昔橋の邊に御亭があつたとしてゐる。童謡に『名所々々ハミツ村が名所、山をかゝえて御亭を持って、前がそりはしそれ名所。』

ミツイシ 水石 鹿島郡上湯川に泥灰岩の露出があつて、その所から石灰華を産する。地方では石膏等を植ふるに用ひて、水石と稱する。

ミツイハザキ 三ツ岩崎 鳳至郡小鶴入の部落西方の岬。

ミツイハヒ 水祝 藩政時代に、婚禮の終つた後賀は双方の親戚に回禮した。先づ式臺に入るとその家の僕婢は『某様御通り』と呼んで主人に通ずる。これは何時でもすることである。主客の對談終り、客の歸らうとする時、僕婢は水を盛り熨斗を添へた手桶を前に置き、居並んで平伏する。客はこの時祝儀忝く納受する旨を述べるのであるが、若しその挨拶がないならば、直に水を浴びせ掛け、それを水祝と稱した。

ミツイ 光家 加賀の刀工。二代忠助光國の第二子。

ミツウチロクサエモン 水内六左衛門 石川郡村井の十村。享保中藩に請うて、徳光・竹松・倉部の海岸砂地を閉墾し、成るに及びこゝに村井新を建てた。六左衛門又享保三年福留の人林彦太郎と謀り、運上島等七ヶ村の荒蕪を閉拓し、十一年に終つて手取川開と稱した。又同七年平加から鷺森に至る砂地閉墾に従ひ、各村地内に組込んだが、是は十九年に終つた。次いで元文五年加賀藩領近江今津・弘川の湖岸波除工事を竣成し、功によつて扶持高四十五石五斗を受けた。明和三年九月歿、齡七十五。

ミツカイチ 三日市 石川郡中奥郷に屬する部落。明治中に至り稻荷の部落を併合した。

ミツカマチ 三日町 羽咋郡押水中庄にある部落。

ミツガマ 三構 金澤の町名。裁松山高巖寺の附近である。舊説に、高巖寺は僧密巖の創立する所であるから、世人之を密巖高巖寺といひ、その門前地を密巖前というたのが、轉じて三構になつたとする。しかしこの地は藩政時代に多く光岸前と書かれ、その光岸は高巖寺のことであるとするのが至當であらう。然らば高巖寺前が光岸前となり、それを光岸前と訓んだ爲に三構に轉じたこととなる。

ミツガマヘバシ 三構橋 金澤高巖寺の門前なる倉月用水川に架けた橋である。

ミツカミ 水上 鹿島郡熊淵の内の小字。

ミツカミ 水上 珠洲郡上(部落名)の内の小字。

ミツカミガハ 水上川 鹿島郡矢田領水上から流出し、同領で大谷川へ入る。流程四軒許。

ミツカミサンノジヨウ 水上三丞 父は近藤三九郎。三丞は氏を改め、越前府中に於いて前田利家から百石を領し、その後世々藩に仕へたが、九代左太夫の時文政十一年出奔して家斷絶した。

ミツカミタエモン 水上太右衛門 初めて前田利常に仕へ、祿七十石を受けた。子孫藩に世襲する。

諸藩士の懇望に依つて僅かに配分するのみであつたが、直方から六代直春の時明治十年から昔く發賣することになつた。

ミツクチ 三ツ口 能美郡山上郷に屬する部落。

ミツクチ 三ツ口 石川郡鞍月庄に屬する部落。

ミツクチシン 三ツ口新 石川郡石浦庄に屬する部落。寛永九年辰巳用水出來の後、その餘水を以て開墾した地であるといふ。

ミツクニ 光國 加賀の刀工、初代光國は慶長の善三郎家重の嫡子で、別に家を建てたもの。通稱忠助。光國と切る。寛永中歿。二代光國はその子で、通稱善三郎。賀州住藤原光國と切る。その子忠右衛門は初め三代光國と稱し、後光平と改銘して加州金澤住藤原光平と切つた。享保頃。

ミツグルマ 水車 管家見聞集に、慶安四年五月下旬から金澤小立野波着寺の彼方に鐵炮の合藥所出來し、水車を以て藥を製した。高原市兵衛といふ牢人、扶持を賜はるに於いては水車を以て合藥すべきことを會所まで申出たにつき、御異風組和田助右衛門・御大工山上善右衛門と示談して之を造らしめたが、その後油種をはたく水車も追々起つたとある。若しこの記事に誤がなければ、正保年中多田與助が倉月用水を利用して油車を造つたのを水車の初とする家傳が訝しいこととなる。波着寺附近の水車は辰巳用水の餘水を用ひたものである。

ミツグルママチ 水車町 金澤の町名。元祿九年の地子町肝煎敷許附に水車町とあり、同年火災記に淺野水車町と記載し、今も或は